

雲鷹丸 第5次航海 明治43年第2次実習航海報告控

受命航路、予定期日概要

今航に於て受けたる命令は、冬季、朝鮮海に於ける実習にして、釜山、蔚山を根拠として、鱈流、鮫釣、秋刀魚流の実習を初めとし、若狭丸英国式流網漁業、其他各種実業漁船又は漁場に就て実地調査の便宜を得せしめ、更に大連に至りて、関東州水産の調査をなさしめ、琉球、小笠原を経て帰京すべき目的に在り。而して、航海中又は漁業実習中、機を得る毎に漁業基本調査を行ひ、随時報告すべきも亦本航受命の要件とす。

其航路及予定期日は、11月中旬品川を發し、館山に至りて同倉庫貯蔵の用具数点を搭載し、大島(串本)に寄港して隼丸より鱈流網用浮樽及ランプを受領し、門司、若松にて便宜用炭を補充し、11月末釜山に到着し、12月中に蔚山近海迎日湾方面の実習に従事し、1月より釜山、巨濟島、対馬、巨文島及近海各方面に於て便宜実習又は調査を行はしめ、2月末を以て朝鮮を發し、関東州、琉球、小笠原を経て、3月末帰京すべき予定なりしも、偶々関東州悪疾流行猛烈なるに及して、大連航行を省き、更に長崎に回航して用炭等補充を行ふに変更したるものなり。

準備日記

明治43年10月下旬、漁艇修繕、漁具補修に着手し、

- 11月 5日 午前9時品川発航、午後1時10分浦賀船渠に至りて入渠し、船底掃除其他、船具修繕に着手す。
- 11月10日 修繕竣工し、午前11時出渠す。而して当日天候不良の為、滞泊す。
- 11月11日 午前8時30分、天候快復したるを以て浦賀を抜錨し、同日午前11時57分品川に投錨し、漁艇、漁具、用水、糧食の搭載に従事し、
- 11月15日 午後5時諸準備完了す。

実習航海日記

- 明治43年11月15日 午後5時3分品川を發し、午後9時32分館山に寄港す。
- 11月16日 漁具、漁艇運搬中、強風襲來の為中止し、荒天錨泊法を行ふ。(其夜、水雷駆逐艦2隻及湾内汽船等走錨したるものありて港内不穩なりしも幸にして無難を得たり)
- 11月18日 午後天候漸次快復したるを以て、用具搭載を終はる。
- 11月19日 午前零時、館山を發し、大島に向ふ。午前駿河湾に至りて西風起る。これより風浪漸々加はり、午後に至りて益々烈しく、進航困難なるを以て、午後4時55分御前岬の北東側に仮泊す。但し、冬季該方面に強烈なる西風多く、曉天は比較的穏やかなるも、午後に至りて猛烈なるを通例とするを以て、明曉天を待たれとしたるなり。
- 11月20日 午前2時、予期の如く風勢稍減し、高浪鎮まりたるに乗じて抜錨進航し、4時御

前岬を過ぎ、正午参河湾(三河湾)外を縫、夜11時45分大島海峡内串本に投錨す。

串本滞在中、当地水産試験場より隼丸依託の流網浮標「ランプ」を受領し、東洋捕鯨、紀灘捕鯨の2社に就て、鯨の処理場設備を見学せしめ、且同地漁業者、松原治五兵衛氏の漁業に関する談話を聴かしめたり。(其概要は指導教官報告書に在り)

11月22日 午後2時7分串本港を発し、夜半紀伊水道を通経し、翌朝播磨灘に入り、

11月23日 午後3時濃雨の爲め、瀬戸内海糸崎港に投錨仮泊す。

11月24日 午前6時37分糸崎を発し、長瀬戸及屋島水道を通過して、午後9時20分部崎灯台の東側に投錨し、検疫官の来船を待つ。

○ 11月25日 午前6時40分検疫を終り、門司港に向て進航し、午前7時50分到着す。而して陸上未だ虎疫(注:コレラ(虎列刺)をいう)根絶せざるを聞知したるを以て、石炭其他補充品購入を見合はす。

△ 11月26日 午前6時50分抜錨し、若松に向ふ。7時56分港外に停船して水路案内者を雇ひ上げ、8時30分若松港に投錨す。而して当地亦其一部に於て虎疫流行の疑あるを警告せられたるを以て食品等の購入を禁じ、只炭庫内に用炭40屯の補充をなしたり。午後、黒田技師、鎌田技手両教官指揮の下に、生徒一同をして枝光製鉄所見学をなさしめたり。

○ 11月27日 午前6時30分若松港を発し、釜山に向ふ。正午玄界灘に入り、夜11時半釜山に到着す。釜山着前より天候不良となり、着後強風となり、出漁を得ず、3日間碇泊す。其間 陸上見学、海産物集散に就て調査を爲さしめ、又水産組合大原、高橋2氏の来船を求めて、韓海漁業に関する講話を聴かしめたり。(其概要は黒田技師報告書に在り)

○ 12月 2日 朝、英國式流網漁業実習の爲め、越智(章)、矢吹(正夫)、辻(知一)の3学生を若狭丸に便乗せしむ。同7時、本船釜山を発して蔚山に向ふ。航途、北西の強風となり、午後零時20分蔚山湾口に至りしも、風力益々強く、寒威甚だ厳しく、出漁を得ず仮泊す。

○ 12月 3日 朝、風威稍減ず。午前10時抜錨して長生浦に転錨す。長生浦は蔚山湾内の左側に在る一小港にして、能く諸風を遮り、安全なる錨地にして、東洋捕鯨会社出張所の所在地なり。同所は所属船7隻を有し、元山以南を漁場とし、日々数頭を獲つつあり。2ヶ所の事業場あり、共に大規模にして、一日能く数頭を処理して余裕あり。3隻の運搬船は絶へず馬関、博多に鮮肉の運送をなしつつあり。現時、盛漁期間、見学の便少からざるを以て、学生上陸見学を行はしめ、且つ各船に便宜分乗せしめん事を依頼し、承諾を得たり。

○ 12月 4日 午後9時、長生浦を発し、10時方魚津に投錨す。方魚津は蔚山湾の東側に在る一小澳にして、其北東2海里に蔚崎灯台あり。南より南東に至る風を除き、諸風を保障し、能く小船の碇泊に適するを以て、明治40年来、我漁船及魚類運搬船の根拠地となり、邦人の移住せるもの一千に達し、当方面最進の状況を呈せり。而して、各県より通漁せる鱒流漁船数十輻湊せるを以て、見学及調査の機多く、且つ生徒を

便乗せしむる便あるを以て、本船亦一時根拠地に撰定したり。此日午後、当地有力者三輪保吾氏に託し、最も安全の漁船を撰び、両3名ずつ分乗せしめたる者下記の如し。

大塚(三平)、田中(耕之助)、石原(重郎)、牛山(美広)、高橋(照文)、上野(省三)、清水、佐藤(敬吉)、三浦(正)、以上9名

① 12月 5日 午前10時15分、抜錨して北進す。午後3時長岬の南東側に仮泊す。翌日快鷹丸遭難地を訪ひ、殉難諸氏の為めに墓標を建てて、其霊を弔ふ。午後零時20分同所を抜錨し、3時甘浦に投錨す。甘浦は方魚津と並び称せらるる良漁場にして、近年長足の進歩をなし、我移住者6百人に達し、鯖漁船の輻湊する所なるを以て、見学調査をなさしめんが為め生徒一同を上陸せしめたり。

② 12月 7日 午前抜錨出漁し、3時甘浦沖合に停船して、4艇出漁をなさしむ。日出、艇を納め、午前6時30分方魚津に向ふ。(此夜獲たるもの鯖2尾) 午前11時20分、方魚津に投錨す。

12月 8日 若狭丸に派遣せる生徒3名帰船し、更に3名を派遣す。午後鯖流網漁船に派遣せる9名帰船す。同時に残余17名を派遣す。

12月 9日 派遣生大半帰船す。

12月10日 派遣生全部帰船す。

12月11日 午前3時、抜錨出漁直ぐ方魚津沖合に停船し、4艇出漁せしむ。午前6時55分艇を納めて進航し、午前8時40分方魚津に投錨す。(此日鯖3尾獲たり)

③ 12月12日 午前6時、方魚津を発し、7時長生浦に投錨す。但し、連日風浪烈しくして、小艇の出漁実習し得べき機会少なく、続いて月夜となり、流漁の休憩期となりしを以て、其間を利用して捕鯨船に分乗せしめ、那諾(注:ノルウェー(諾威)?)式鯨漁を実習せしめんとしたるなり。其夜、東洋捕鯨第三東郷丸に3名を派遣し、以後機会を得る毎に各船に両3名ずつ交番に派遣し、在船生徒は作業技術実習又は座学講習に従事せしめたり。(分遣人名、船名、明細書は当時報告書に添へて提出したる表にあり)

12月23日 東洋捕鯨会社蔚山事業所より石炭15屯を購入搭載す。

12月24日 若狭丸及捕鯨船共に各1回の便乗実習を終りたるを以て、午前9時35分抜錨して再び鯖漁根據地に向ひ、10時35分方魚津に投錨す。午後4時3艇出漁し、夜半月出し及しけ帰船す。所獲無し。

12月25日 午後2時40分、抜錨して漁場に向ひ、午後4時4分蔚山湾口沖に停船し、3艇を下して出漁せしむ。4時30分汽走し、同48分方魚津に投錨して各艇の帰船を待つ。9時各艇帰る所獲なし。

12月26日 午前5時45分、方魚津を発し釜山に向ふ。10時21分釜山に投錨す。

12月27日 午前7時、黒田技師指導の下に生徒総員上陸して魚市場視察に赴き、加藤支配人の談話を聞く。(其概要は別紙報告書の通り)

12月28日 船内大掃除を行はしむ。

← 長著

12月29日 総員大洗濯を行はしむ。

12月30日以後、暮年休暇を与ふ。

明治44年1月1日 午前9時、満船飾をなし、総員甲板に整列して遥拝奉賀式を行ふ。

1月 2日 午後1時より端艇競漕会を開く。税関、水産組合員、各学校の来賓あり。日没解散す。

1月 4日 火夫寺師茂一下船出願許可。同辻井源三郎雇上乘船せしむ。同日午後1時釜山拔錨。同4時38分巨濟島東岸の玉浦湾内菱浦(ルンゲ)に投錨す。菱浦は釜山の漁業家香椎組が経営せる70余所の漁場本部所在地にして、伝習所出身の吉田__太郎(注: ← 鋸 明治28年第8回生)、本所出身能美猪勇武(注:第13回生)2氏の配下に30余名の邦人あり。冬季間、角網鱈漁に従事せり。聞く所に抛れば、春季鯖、夏__ (注:烏賊?)・ ← 鰯 鯖・太刀魚等の雑漁ありて、周年事業を継続し得ると謂へり。着後直ちに学生をして漁場見学を行はしむ。

1月 5日 黒田技師指導の下に生徒総員隣村入佐浦漁況視察に赴き、(其概要は別紙報告にあり)日暮帰船す。

1月 6日 午前9時15分、菱浦出発、正午馬山浦に到着す。馬山は往年魯国の着目経営したるに際し、我邦亦相並して画策したる新港にして、其繁栄釜山に亜き、鉄路、電線の布設あり。諸官衛学校、病院、銀行等悉く備はり、其対岸に新開せらるべき鎮海要港部懸洞の発展に伴って将来多望なる要地にして、朝鮮海水産組合支部、水産株式会社等あり。目下水産組合は懸洞の隣湾に於て一大漁村計画しつつあり。水産業者の参考に資すべきもの少なからず、且つ該方面一帯の水産情況は此地に於て探聞せらるべきを以て、着後直ちに上陸を許し、任意視察に赴かしめ、小官等は府庁及民庁に出頭して見学上の便宜を依頼したり。

1月 7日 府尹及民長の来訪あり。午後黒田技師指導の下に生徒一同民団庁に至り、前田民団長の講話を聴く。

1月 8日 午前10時、馬山拔錨。午後2時56分、多太浦(タデーポ)に投錨す。多太浦は巨濟島の東岸南端に在る小港にして、Cape Carlet 水祭峯(ムジボン)の間にあり、東風及南東風を除き能く諸風を保障せり。春期鱈の群来あり。夏期鯖漁豊富にして我通漁者の一大根拠なりと謂へり。着後直ちに上陸見学せしめたるに、当季節に在りては漁者多く帰郷し、留まる者甚だ少く、見るに足るものなかりき。(此夜海岸の岬下に差網を試みてメバル数百を獲たり)

1月 9日 午前6時、多太浦を拔錨し、午前9時25分欲知島東港に投錨す。本島は巨濟島の南西約20海里に在り、島頂を天皇峯と称し、高さ1,300呎にして其北に高山肩を有し、東西南の3岸は該峯より分走せる山背に依りて5湾を構成せり。東港は即ち其一にして、本島の北側面に在り、能く諸風を遮り、大小の船舶の泊するに足る良港なり。而して此近海水深30 40尋の良漁場多きを以て、愛媛県水産試験場技手小川濟氏は、此所を根拠地として約20隻の打瀬舟を指導経漁し、頗る良成績を挙げつつあり。亦実習の良機とするに足るを以て、同氏に託し数艘に分乗せしめ、生徒の総

員を派遣したり。

1月12日 午前6時50分、東港拔錨し、釜山に向ふ。但し、^{ふか}鱧漁の餌買入等準備の為めなり。同日午後2時15分釜山に投錨す。

1月14日 飲料水を補充し、餌用^{するめ}鰯を購入す。

1月16日 午前1時30分、釜山を發し、鱧釣漁場に赴く。午前6時50分、對馬北西側の沖合（北緯34度36分、東經129度8.5分、深さ57尋、泥土質）に至りて停船し、4艇を出して鱧漁実習を行ひ、正午風浪烈しきに至りて各艇を納め、午後3時14分對馬北西岸仁田湾口の北隅志多留村に至りて仮泊す。

1月18日 午前7時35分、志多留沖拔錨漁場に向ふ。9時25分、北緯34度41分、東經129度15分に至りて停船し、4艇を出漁実習せしむ。午後4時各艇を納め、帆走す。夜に入り、強風となり、翌日に至るも出艇し難きを以て、帆走実習を行はしめ、午後3時27分釜山に入港す。

1月23日 午前10時37分、釜山拔錨し、午後1時6分、東經129度9分20秒、北緯34度58分20秒に至りて停船し、4艇出漁せしむ。（水深97尋、泥土質）午後7時各艇帰船す。所獲無し。其夜帆走^{ちちゅう}脚（注：進むのをためらって立ち止まること）す。

← 脚

1月24日 既に数回の実習を行ひ、未だ1尾の所獲なきは畢竟^{ひっきょう}（注：要するにの意）好漁場に当らざるが為なるを以て当季鱧漁船根拠地たる佐須奈に入港し、探聞せん事に決し、午前6時20分より汽走し、8時6分同港に投錨し、鎌田教官指導の下に生徒一同上陸して、鱧其他漁業上視察を遂ぐ。

1月25日 午前8時、佐須奈拔錨、午前10時、東經129度21分、北緯34度55分30秒、深110尋に至りて停船し、4艇出漁せしむ。午後2時風浪強大となりしを以て各艇を納め、帆走す。

1月26日 午前9時2分、東經129度27分40秒、北緯34度59分、深110尋、泥質に於て停止し、4艇出漁す。午前11時風浪俄に來りたるを以て各艇を納め（第3号艇鱧1尾の漁獲あり）汽走して泉港に向かひ、午後3時34分、同港に投錨す。夕景より天候漸々不良を増し、風力愈々加はり、ついに暴天となりて数日に及ぶ。

1月31日 午後、天候快復す。日暮（5時27分）拔錨出港し、帆走、漁場に向ふ。

2月 1日 午前8時、東經129度27分、東經35度2分10秒、深110尋、泥質に停船して、4艇出漁せしむ。午前11時55分浪漸高まり、各艇帰船す。所獲鱧4尾あり。同時汽走釜山に向ひ、午後3時3分入港し、所獲物払下、飲料水補充等次航準備をなす。

2月 3日 午前7時45分、釜山拔錨。10時漁場に至りし頃猛烈なる北西風となりしを以て機関を停止し、帆走す。午後益強風浪加はり、夜に入りて僅かに減ず。終夜帆走実習す。

2月 4日 午前7時、収帆、汽走。7時30分、東經129度22分、北緯34度59分30秒に至りて停船し、4艇出漁せしむ。午前11時風浪再び強まり就漁し難きを以て各艇を納め、帆走す。午後西風益々強まり鱧漁場に見込なきを以て、對馬の風下側、即ち東海岸に至り、秋刀魚流網実習に決し、帆走南進す。

2月 5日 未明(午前4時30分)、対馬東岸、東経129度27分40秒、北緯34度13分、深48尋、砂質に至り停船し、2艇を出して秋刀魚流漁実習せしむ。天明(注:明け方)各艇を納め、厳原港を指し、午前8時56分入港して、風勢の静まるを待ち、生徒陸上見学を行はしむ。此朝秋刀魚9尾収獲あり。

2月 6日 午後、風力沈静したるを以て、1時20分厳原を抜錨し、帆走す。

2月 7日 午前3時50分、厳原の東南距岸3海里に於て2艇を出し、秋刀魚流網実習を行はしめたるも獲る所なく、午前6時38分艇を納めて汽走北進して、再び鱧漁場に赴く。正午対馬北端の東方東経129度32分40秒、北緯34度47分20秒に於て停船し、4艇を出して鱧釣り実習せしむ。午後3時35分各艇を納め汽走し、午後8時30分釜山に入港す。本日所獲なし。

2月 9日 生徒 布目 孜(注:14回生)乗船す。又本日より漁具索具滑車等を出しを行ふ。

2月11日 紀元節奉祝会を開く。

2月12日 午前6時13分、釜山を抜錨し、西航の途に就く。但し釜山近海鱧漁既に十数回の実習を重ねしを以て、更に西南及西方の各漁業地見学及黄海南部の鮫、鱈等の実習を行はしめんが為なり。午前10時、南兄弟島沖に至りて順風を得、機関を停止して帆走に変じ、午後6時20分鵠島沖を過ぎ、10時広浦島沖を過ぐ。

2月13日 午前5時30分、収帆汽走に変じ、7時17分所安港に投錨す。同港は所安群島中、甫吉島、露見島、所安島の3島によりて諸風を保障せられ、充分なる警戒を以てせば大船と雖も安全に碇泊し得べき良港なり。而して春より秋に至る迄の間は潜水漁者の根拠として有名なり。将来鮮魚運搬の便完備するに至らば、良漁港たらんを信ぜらるるを以て、一見せしめんとしたるなり。着後、学生を上陸せしめ、港内各村を実見せしめたるも、冬季漁者帰郷し見るに足るものなかりしと云う。

2月14日 午前6時30分、所安港抜錨、汽走、木浦に向ふ。細雨濃霧交々来り、島影を認め難きの屢なりしも、順潮急にして、午後1時20分木浦に安着したり。此地は明治30年来の開港にして、米、綿花等の輸出あり、近き将来には鉄路、電鉄を通すべき計画あり。朝鮮南西部枢要の良港なり。而して朝鮮海水産組合は此地に支部を有し、管内の漁業区域甚だ広く、南は済州島、椒子島、西は大黒山列島、北は群山に至る。其漁業種類も亦済州島の鯛、鮑、木浦近海の「あんほ一」網漁、春夏期の鱈漁及諸方面の海草(藻)類等、甚だ多種なりと謂へり。当地碇泊中に於て、「あんほ一」網漁法を実見せしめ、井上水産組合技手を請ふて当方面水産上の講話を聴かしめ、税関監視船を借りて、栄山口の牡蠣養殖所実見をなさしめたり。

2月18日 木浦抜錨。午後1時半、羅州群島北水道通過中、強風となりて進航し難く、鹿島南側に仮泊す。

2月19日 午前8時、風力沈静す。同時抜錨北進し、11時20分大虚沙嶋を過ぎ、北西に進み、午後2時16分北緯35度22分、東経125度40分30秒、深さ37尋、海底砂泥質(水温摂氏5度、比重1.0253)に停船し、2艇を出して延縄を実習せしめ、午後6時漁艇を納む。所獲アカタイ2、角鮫3尾あり。6時30分帆走北西を指す。

○ 2月20日 日出、東経125度25分、北緯35度30分、深さ52尋に至り収帆停船し、2艇を出す。午前10時10分、2艇を納む。所獲鱈1尾、アカタイ3尾、角鮫3尾あり。10時15分汽走帰路に就く。午後4時七発島灯台を過ぎ、八口浦外を過ぎ、長升水道を通り、夜所安港内方を経、夜半小茅島の灯台を航過す。

2月21日 午前3時50分、巨文島港に投錨す。曾て魯国の我对馬を窺うや英艦隊は当港を占領して Port Hamilton と命名し、貯炭所を設けたる事あり。東島、西島及古島の3島より成り、中間に一良港を形作り、諸風に対して安全の避難泊地たり。港内に数個の村落あり。人口約二千ありて、粟作をなすもの多しと云へり。近来我水産業者の移住せるもの約二三十戸にして、四季共各種の漁業を行へり。釜山水産株式会社の出張漁場あり。朝鮮海水産組合出張所あり。頗る有望の漁港にして、亦一見の価値ありと雖も方 2月の 業極度期に在りて多く見るものなかりしは遺憾とす。此日は本船の進水記念日なるを以て休業せしむ。

× 2月22日 午前6時32分巨文島を発し、10時30分居金島を過ぎ、午後2時45分比珍島を過ぎ、3時55分統営(トンヨング)の東港に投錨す。昔、豊公の遠征軍を送りしとき、水軍の將加藤嘉明は彌勒島を占領して秦を築き、此地を襲はんとして韓明連合の水軍に逆襲せられし事あり。当時の記念建築今尚巖然として中央街頭に聳ゆ。聞く彼等は以来我軍を恐れざるが如く、時には日軍克く清、魯に勝つも朝鮮を懼れて戦はずといふ者さへありと。滑稽も亦極まると云ふべき乎。此地東に統営海湾(Shadwell Gulf)を隔てて巨濟島に対し、南、烏首里島と比珍嶋によりて灣門をなし、彌勒島によりて西方一帯を保障せられ、北西は遠く大陸に通じ、殆ど一大湖水内にあるが如くにして、而も四方に通ずるの水利あるを以て常に漁船輻湊し、馬山と相並して水産物集散の要地たり。韓は約8千戸、内地人約7百軒あり。警察、衛生、教育等の設けあり。又通信運輸の便あり。亦以て該方面の漁業発展を助くるに足る大根拠地と認むべきを以て、生徒をして任意視察調査を行はしめたり。

2月24日 午前6時30分、統営抜錨。7時長江水道を通過し、9時加三島を過ぐる頃、強烈なる逆風となる。10時10分巨濟島の南東岸陶浦湾内、旧助羅(クジョラ)浦に避難仮泊す。宮崎県水産試験場船高千穂丸亦此所に在り。技手荒卯忠、練習生木下信資氏、来訪す。

2月25日 午前0時30分、風勢沈静す。同時抜錨、釜山に向ひ、午前5時58分到着投錨す。

2月26日 午前、朝鮮海水産組合技手前田春水氏を請し、仁川管内に於ける漁況の講話を聴かしむ。是により、群山以西北鴨緑江に至る概況を略知し得たるものにして、即ち本船の回航したる方面と併せて、朝鮮全岸の漁情一斑は概略見聞を一遍し得たるものとす。正午抜錨に着手し、48分装帆出港す。午後2時釜山灣門を航過し、午後9時対馬北端三島灯台を過ぎ、南々東に定針し、長崎に向ふ。

○ 2月27日 午後3時、無風となる。同時収帆、汽走す。7時56分、東経129度27分30秒、北緯33度50分、深さ35尋に於て停船し、2艇を出して秋刀魚流網実習を行ふ。10時26分漁艇を納めて、再び進航す。所獲秋刀魚数尾、鯛数十尾あり。正子、二神島正横

4海里半にある。

- 2月28日 午前4時、大立島灯台を過ぎ、7時半伊王島に並び、8時30分長崎港外に投錨して検疫を受け、9時40分長崎港内に投錨す。
- 3月 1日 学生をして海底電線敷設船小笠原丸及三菱造船所を見学せしめ、水夫をして外舷塗料手入をなさしむ。
- 3月 2日 石炭82噸、淡水32噸搭載す。
- 3月 4日 午前10時、長崎拔錨し、長崎県水産講習所実習船を引きて進航し、午前11時23分伊王島灯台を経て、同船を放つ。此時該方面一帶鰯の群集せるを見る。午後2時半ゴンドウ1尾衝き止めたるも、錨脱却して逸走す。午後8時機関停止して帆走す。
- 3月 5日 正午、東経129度10分、北緯31度35分に至り、天候漸く不良の兆あるを以て針路を甌島列島に取り、午後1時汽力避走し、午後6時10分上甌島の中甌港に避難投錨す。其 暴風雨となり、翌日益凶悪となる。 ← 沢
- 3月 7日 午前6時、北風となりて天気漸快復す。同時拔錨、帆走沖繩に向ふ。9時7分釣掛崎灯台を過ぎ、午後4時40分草垣島の西方約12海里を通過す。正午無風となり、汽走に變ず。
- 3月 8日 午前7時35分、悪石島を南東15海里に見て通過し、正午横島を13海里東南東に見て過ぐ。午後9時24分鳥島南東/東13海里に見て航過す。
- 3月 9日 午前6時44分、伊江島灯光に並び、10時47分沖繩港外灣に投錨す。午後より生徒をして陸上見学を行はしむ。
- 3月10日 沖繩県立水産学校職員、生徒、来覽す。
- 3月11日 沖繩県立師範学校職員、生徒、来覽す。午後6時拔錨、小笠原に向ひ汽走し、8時沖繩島南端の南東沖合に至りて帆走に変更す。
- 3月12日 午後、風威漸々減じ、夜に入りて無風となる。9時帆を収めて汽走す。
- 3月13日 午後9時56分、順風を得て機関を停止し、帆走す。是より連日好風順走して、引繩を試みたるも所獲なかりき。
- 3月18日 午前8時25分、二見港に投錨す。当港は南方諸島中唯一良港にして、水稍深きに過ぐと雖も保錨宜しく、海岸に流入せる溪流数ヶ所に在りて、用水を得るの便あり。港口は右方に野羊島あり。之を距る1鏈(注:0.1海里)余に南浅灘と称する暗礁あり。左方に烏帽子岩あり。之れを距る3鏈4分にしてホルトン浅灘あり。殆ど港口の中央に当るを以て、出入甚だ危険なりと雖も、要島頂上と丸山山側の鉄造立標によりて昼間は安全に通航を得べし。本島は魚族甚だ豊富なるも漁民の数未だ多からざる為め、産額大ならずと雖も、漁民の頗る良好の生活をなしつつあり。鮪節、鯉節、緑 亀缶詰等の輸出あり。陸産は各種良材細工物、砂糖、木耳、鳳梨、芭蕉実等あり。島庁は水陸産業の発達を計りつつあれば、将来益々見るべきものあらん。 ← 蟻
- 本船碇泊中、暴天の為め1回の出漁を得ざりしも、島庁技師菟田芝芽男氏に託し、群島の水産に関する講話を聴かしめ、且つ物産陳列場、植物試植場等の見学を行はしめたり。

3月22日 午前6時45分、二見港を抜錨して汽走す。前日来の北東余波尚高く、進航遅々たり。午後1時聳島列島の風下側通航の際、小笠原島丸の碇泊せるを認めたるを以て、該列島漁況を聞かんが為め、本船亦同所に投錨したるに、2隻の漁舟来りたるを以て、其漁況を問ひしに、時少しく尚早にして、未だ鮪の好漁なきも来月中旬より盛漁期たるを答へ、鰹は7月より漁期となり、盛なる群来を見る事多きも、現時は磯魚類のみなる由を答へたり。本船仮泊中、試漁したる所によれば、雑種魚は頗る豊富なるが如く、約1時間にして数十尾を獲たり。該錨泊地は島の南西側に在り、北より東の風に対しては稍安全なるも其他諸風には危険甚し。小漁舟には崖岩の間に2ヶ所の好泊地あり。共に数戸の漁家あり。本船は午後1時59分抜錨して再び汽走北進し、日暮総帆を展して機関を停止す。

3月23日 終日順風に快走す。然し晴雨計は漸々下り、天候凶兆あり。低気圧の近き来るを示し、風位の右転によりて低気圧右半円前象限を順走しつつあるを察知警戒せり。

3月24日 朝来、風位益右転し、降雨烈しく、気圧亦大降り、暁天北西風となり、遂に北風となる。此より汽走逆航す。

3月25日 気圧漸々快復したるも、北東風尚ほ強く、濃雲天を覆ひ、豪雨屢々降る。午前9時20分八丈ヶ島を左舷正横に認め、午後6時三宅島を正西10海里に見て航過す。

3月26日 午前0時17分、野島崎灯台を北東6海里に見て通過し、4時34分観音岬灯台を経て、5時5分第二海堡を経過し、午前8時13分品川海に投錨す。

本航海に於ける各正午位置

各正午の本船位置、風、潮、天候、水温等は別表に明記せり。

航 跡

本航海の航跡は、別紙略図2通に示せり。第一は品川発、同地着までを略示し、第二は朝鮮海従漁地点を示したるものなり。

衛生状態

衛生状態は概して良好なりしは、別冊、事務長岩崎甚左衛門提出、衛生状態報告にあるが如し。

生徒調査報告書

実業船に便乗派遣中に得たる調査は、各生徒の提出したる報告書に在るが如くなるを以て、本報告に添へて提出す。

右(上)の通り報告申上候也

明治44年4月7日

雲鷹丸 船長 浅利孝爾

水産講習所長 下 啓助 殿

明治43年度 雲鷹丸 第2次航海 正午位置表

年月日	東經	北緯	マイル数	流向	流速	天候	風位	風力	気圧	気温	表面水温
43.11.16	館山湾					c	NW	1	29.85	65	70
17	同					c	WNW	8	29.64	60	62
18	同					bc	WSW	4	29.97	64	66
19	138-41	34-35	70			b	W	5	29.97	60	64
20	137-10	34-30	88			b	NW	5	30.24	56	54
21	串本港		95			b	W	2	30.25	66	64
22	同					b	S/E	2	30.35	64	65
23	133-30	34-19	171			c	N	2	30.17	63	60
24	132-23	33-50	72			bc	WNW	3	30.07	64	64
25	門司港		80			b	calm		30.22	59	60
26	若松港		9			b	calm		30.19	57	58
27	130-47	34-02	10			b	E/N	1	30.22	61	62
28	釜山港		112			r	E	3	30.23	54	57
29	同					r	NE/E	5	30.29	56	56
30	同					od	NE	4	30.04	56	56
12. 1	同					c	NW	5	29.96	56	56
2	蔚山港		30			c	NW	7	30.23	36	49
3	長生浦		2			b	N/E	3	30.37	48	50
4	方魚津		6			bc	W	2	30.39	48	55
5	129-33	35-42	15			b	NW	4	30.60	53	58
6	長岬		23			bc	WNW	3	30.55	45	50
7	方魚津		39			b	NW	4	30.33	45	45
8	同					b	SW/W	1	30.18	48	57
9	同					b	NNW	4	30.18	41	51
10	同					b	NW/W	3	30.28	40	54
11	長生浦		25	NNE	2	b	WNW	3	30.33	34	44
12	同					bc	N/W	3	30.45	40	46
13	同					c	N/W	2	30.43	41	42
14	同					bc	N	2	30.40	47	46
15	同					b	N	4	30.38	49	42
16	同					bc	NW	5	30.19	45	42
17	同					b	N	4	30.30	44	46
18	同					bc	N/E	3	30.33	52	47.5
19	同					c	NW	1	30.34	44	48
20	同					c	NNW	1	30.12	45	47
21	長生浦					bc	N/W	4	30.15	40	39
22	同					b	NNW	5	30.22	38	36
23	同					b	NNW	2	30.16	54	34
24	方魚津		6			b	NW	3	30.22	50	57
25	同		12			b	calm		30.05	53	38
26	釜山港		30			b	NW	3	30.13	48	51
27	同					b	W	2	30.05	56	48
28	同					b	NW	2	30.34	50	44
29	同					b	WSW	3	30.14	50	47
30	同					o	NNE	1	30.08	41	41
31	同					b	NNW	1	30.13	45	44

年月日	東經	北緯	マシ数	流向	流速	天候	風位	風力	気圧	気温	表面水温
44. 1. 1		同				b	NW	2	30.20	44	44
2		同				b	W	1	30.30	34	43
3		同				b	NW/N	2	30.36	46	47
4		同				c	NW	1	30.22	45	50
5		菱浦	27			b	NNW	4	30.00	50	50
6		馬山浦	22			b	N	4	30.40	38	39
7		同				c	NE/N	1	30.43	34	32
8	128 45	34 58	16			c	SW/S	3	30.26	43	43
9		欲知島	44			c	NW	1	30.32	44	48
10		同				c	NW	1	30.22	56	46
11		同				b	N/W	1	30.20	52	50
12	128 55	34 57	42			b	N/W	7	30.21	32	48
13		釜山港	18			b	NNW	4	30.36	34	45
14		同				b	WNW	3	30.37	38	48
15		同				b	NNW	3	30.35	42	47
16	128 57	34 26	45			bc	N	5	30.36	45	54
17			20			b	N	2	30.32	54	57
18	129 15	34 41	10	NE	1.5	b	NNW	1	30.26	48	54
19	129 04	34 58	15	NE	1.5	o	NNW	3	30.15	46	52
20		釜山港	16			bc	NE/E	4	30.17	48	52
21		同				c	NW	3	30.10	45	48
22		同				b	WNW	3	30.24	45	47
23	129 09	34 59	10			b	NW	1	30.39	32	46
24		佐須奈浦	23			bc	NW	3	30.28	50	56
25	129 21	34 56	17			b	W/N	3	30.25	42	57
26		泉浦	6	NE	1.5	c	NNE	5	30.24	45	57
27		同	16			r	ENE	4	30.21	49	58
28		同				r	NNE	6	30.01	51	57
29		同				cr	NE	5	30.09	52	55
30		同				cr	E	1	30.03	57	55
31		同				c	N	3	29.67	52	55
2. 1	129 27	35 02	21	NE	1.5	c	WNW	3	29.75	48	52
2		釜山港	21			c	WNW	3	29.90	48	49.6
3	129 21	35 07	16	NNE	1.3	b	NW/W	7	30.09	37	52.7
4	129 31	34 59	11	NNE	1.3	b	WSW	4	30.22	43	55.4
5		厳原港	53			b	W	2	30.31	42	54.5
6		同				b	NE/N	2	30.36	52	52.5
7	129 33	34 47	40			bc	WNW	4	30.45	54	55.5
8		釜山港	32			b	NW/N	2	30.35	56	48
9		同				b	N/E	4	30.65	50	48.2
10		同				b	WSW	1	30.57	55	49.1
11		同				c	W/S	1	30.42	49	50
12	129 35	34 38	40	ENE	1	b	NNE	5	30.58	47	51.3
13		所安港	99			cr	NE	2	30.37	48	45.5
14	126 14	34 42	38			r	NNE	2	30.09	45	42.5
15		木浦	8			c	NW	3	30.26	40	
16		同				b	N	5	30.49	39	41

年月日	東経	北緯	マイル数	流向	流速	天候	風位	風力	気圧	気温	表面水温
44. 2. 17		同				cs	NW	3	30.57	33	40
18		鹿島	12			b	N	5	30.58	35	40
19	125 54	35-11	27			b	NE/N	3	30.72	41	36.5
20	125 20	35-20	28			bc	calm		30.68	43	43
21		巨文島	134			c	N/E	2	30.49	48	50.4
22	128 04	34 28	46			c	NNW	3	30.31	49	47.7
23		統營	33			c	NE/E	4	30.52	49	43.7
24		旧助羅浦	26			b	NE	6	30.53	55	50.9
25		釜山港	34			b	NNW	1	30.43	60	50
26		同				b	NW	3	30.11	58	50
27	129 32	34 12	60			b	NE	2	30.15	51	54.5
28		長崎	170			b	WSW	3	30.08	60	56
3. 1		同				c	NNW	3	29.97	54	54.6
2		同				c	NW	4	29.91	46	54.5
3		長崎				c	NW	3	30.07	48	52.9
4	129 42	32 39	13			b	NW	1	30.11	58	57.2
5	129 17	31 35	70			c	SSE	6	30.09	63	59
6		中甌港	41			b	SSW	7	29.89	64	62
7	129 29	31 21	38			b	NNW	4	30.06	57	61.3
8	128 51	28 57	148	ENE	1.3	c	SSW	1	30.07	69	68
9		那覇港	192			bc	SW	2	30.02	78	77
10		同				bc	SSW	3	29.94	78	71
11		同				b	N	4	30.16	73	69.7
12	127 54	25 40	45			bc	ESE	4	30.19	74	72
13	130 25	26 23	145			c	S	4	30.17	75	71.6
14	132 45	26 37	126			c	S/E	2	30.05	74	69.3
15	135 04	26 55	126	N63E	0.8	c	W/S	6	29.95	73	72
16	137 00	26 56	103	SW/S	0.5	c	WSW	4	29.96	73	70
17	139 45	27 12	148			b	SW/S	4	29.95	73	72
18		小笠原二見港	132			b	SW/S	4	29.96	78	71.6
19		同				c	SSW	7	29.80	76	72
20		同				bc	NW	5	30.08	66	69
21		同				bc	N/E	2	30.24	62	68
22	142 08	27 34	33			c	NE	4	30.31	69	69.8
23	141 15	29 54	148			ocr	SE/E	7	30.15	65	65.5
24	140 59	31 37	105			ocr	NNE	6	29.65	63	65
25	140 03	33 29	122			c	NE	6	29.99	59	64.5
26		品川港	130			r	NE	2	30.24	50	51

航送距離 4094

注：気圧の単位は、水銀柱インチ(in-Hg)を使用。1気圧 = 1013.250 hPa = 29.92 in Hg
 温度の単位は、華氏(°F)を使用。40°F-4.4°C, 50°F-10.0°C, 60°F-15.6°C, 70°F-21.1°C